

資料で旅する仙台藩の「道」

七ヶ宿街道

仙台市博物館 学芸普及室 長澤 伸樹

第11回

七つの宿場を越えて

仙台領と山形方面をつなぐ道のなかに、桑折（福島県伊達郡桑折町）から奥州街道を西に逸れ、仙台領の小坂峠・金山峠を越えて、上山（山形県上市市）へ至る山間の道があります。

早くから地域の重要な幹線道路として利用されてきたこの道は、江戸時代、道沿いに七つの宿場（上戸沢・下戸沢・渡瀬・関・滑津・峠田・湯原）が開かれ、「七ヶ宿街道」と呼ばれるようになりました。伊達氏にとっては、古くからつながりの深い道で、関連資料も数多く残っています。

軍事・経済の道

早い例では、南北朝時代の康暦二年（二三八〇）、伊達郡を本領とする伊達氏八世・宗遠が、置賜地方へ進出をはかる際、桑折からこのルートを進軍したと伝えられています。

慶長五年（一六〇〇）九月の関ヶ原合戦では、徳川家康に味方する伊達氏と、石田三成に味方する上杉氏との間で戦いが繰り広げられました。このとき、街道沿いの湯原城（七ヶ宿町）に拠点を置く上杉氏に対し、一七世・政宗は重臣の茂

庭綱元に命じて、これを攻略させました。いずれも、街道が軍事活動の要となっていたことが分かります。

一方、七ヶ宿街道は、経済を支える道としても重宝されました。戦国時代に、七ヶ宿周辺を治めた重臣・中野氏へ、一五世・晴宗が与えた文書の写しにその様子が記されています。

それによると、遠方から関（七ヶ宿町）へやって来た商人が、七ヶ宿街道を経由して、米沢（山形県米沢市）や長井（山形県長井市）へも出かけたとあり、商人の往来が活発な道だったようです。

沿線では、通行量の増加に対応して、伊達氏の支配も強化されました。天正一九年（一五九二）七月、葛西・大崎一揆鎮圧のため、政宗は負傷した家臣を米沢へ送還する際、関・湯原や新宿（山形県高島町）の各宿に、家臣の移送を命じています。

この直後、豊臣秀吉による国替えのうわさで米沢が混乱に陥ると、物資の輸送を「新宿・湯原・下関」経由に限らせるなど（写真）、政宗は街道の様子に細心の注意を払っていたようです。

政治の道

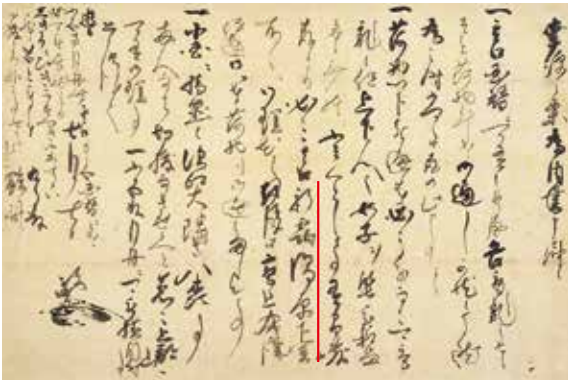
一方、江戸時代の七ヶ宿街道は、出羽の

大名による参勤交代の道として利用されるようになりました。

早い例では、寛永元年（一六二四）四月、江戸から帰国途中の秋田藩主・佐竹義宣が、桑折から檜下（山形県上市市）を通り、その途中で「ゆの原にて御昼休」したことが記録されています。

また、街道の中間に位置する関には、参勤交代の大名が宿泊する本陣も設けられました。戊辰戦争が始まった慶応四年（一八六八）閏四月、仙台・米沢・会津藩の家老がこの関に集い、朝廷から追討令を受けた会津藩の謝罪に向けた会談を開くなど、藩の政局を左右する重要な舞台にもなっています。

七ヶ宿街道は、中世以来の伊達氏、そして仙台藩の歴史を語る上で重要な道の一つだったのです。



(天正19年)7月7日付け
伊達盛重・伊達宗清宛て伊達政宗書状(仙台市博物館蔵)
傍線部に「新宿・湯原・下関」とある。

仙台市史 全32巻

市制100周年記念事業として編さんが行われた仙台市史は、原始から平成元年に仙台が政令指定都市となるまでの事象をあつかい、最新の研究成果を盛り込んだ内容になっています。

「通史編」9巻のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」13巻、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」9巻に、「年表・索引」1巻を加え、全32巻が刊行されています。仙台市史を通して、仙台市の歴史に思いをはせてみませんか。

購入方法等は博物館HPをご覧ください。



- 通史編** 原始、古代中世、近世1~3、近代1・2、現代1・2
- 資料編** 古代中世、近世1~3、近代現代1~4、仙台藩の文学芸能、伊達政宗文書2~4(伊達政宗文書1は完売)
- 特別編** 自然、美術工芸、市民生活、板碑、民俗、城館、慶長遣欧使節、地域誌(考古資料は完売)

長期休館のお知らせ

仙台市博物館は、
令和3年10月1日 から
令和6年3月31日(予定)まで
大規模改修工事のため**休館**いたします。ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶ 博物館ホームページ 仙台市博物館 検索
▶ 博物館ツイッター @sendai_shihaku

▶ お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074/FAX:022-225-2558
8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く